



矢倉かつお NEWS

Yakura katsuo news

Vol.2 平成26年3月号 発行 公明党参議院埼玉選挙区第1総支部



特定秘密保護法について ※メールマガジンより抜粋

公明党がこの特定秘密保護法の成立を、なぜ支持したか。第一に、この法律がないと、どうしても守らなければいけない情報が外に漏れてしまい、外国やテロの攻撃の危険性があるからです。

第二に、この法律がないと、諸外国から「日本では重要な情報が守れないので、日本に情報を渡すのはやめよう」と言う可能性があるからです。みんながみんな信頼できる人であればいいのですが、そのなかで一人でも信頼できない人がいれば、そこからインターネットなどを利用して、あちらこちらに情報が広がってしまいます。

また残念ながら、実務を担っている各行政機関にしか、何を秘密にすべきか判断する能力がないことも事実です。ですから、秘密の指定は行政がするしかないので。そのうえで、二重三重にチェックする仕組みを不断につくっていくことが国会に課せられた役割です。公明党の強い主張で相当程度、この法律はチェック機能を果たせるものとなりました。

「特定秘密保護法」という名前が混乱を生じている原因かもしれません。まるで秘密国家を目指しているかのような名前ですが、この法律の内容を正確に表すのなら、「特定秘密保護法」ではなく、「機密情報漏洩防止法」ではないでしょうか。この法律はあくまでも出発点です。

本会議にて初質問

昨年11月27日、本会議にて公明党を代表し、本会議にて初質問。参議院で審議入りした「特定秘密保護法案」。質問の内容は「情報秘匿の必要性和報道の自由や国民の知る権利とのバランスをいかに図るかとの観点から議論すべき」と指摘。また行政機関による恣意的な秘密指定が行われないように求める一方で、特定秘密ではないものの、それに関連した情報を漏らした場合も処罰される可能性があるのか質問。

安倍首相は質問に対し、「特定秘密でない情報を漏れいしたとしても、本法案の漏れい罪により処罰されることはない」と明言。さらに行政機関による“情報隠し”防止に向けた首相の決意をただした。首相は「政治のリーダーシップを発揮し内閣として秘密保護に関する共通ルールの適正な運用を図る」と前向きな答弁がありました。



特定秘密保護法に関連し、11月21日には日本版NSC（国家安全保障会議）設置法案について、参考人質疑で質問。（写真：左）NSCに集められた、情報の分析に基づく政策決定者への提言の進め方について、参考人の見解を求め、春原剛氏（日本経済研究センター・グローバル研究室室長）は、「NSCを設置する上で最も重要な点は、NSCが自らの意向に沿った情報だけでなく、すべての情報を遍く集めた上で、政策決定者が正しい政策や方向性を判断するための役割を担うこと」と述べその環境整備の重要性を主張した。

豪雪被害の現場へ急行！

2月14日(金)に関東一円を襲った豪雪の被害は甚大なものでありました。被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。特に農業の被害は県内各地に甚大な被害をもたらしました。私は、2月18日、鴻巣市を訪問し、大雪による主力産業の花きへの被害状況について、緊急視察しました。(潮田幸子、橋本稔、川崎葉子の各市議が同行。)

同市は、サルビアなどの植物が全国有数の出荷量を誇る花き産地。

同市屈巢にある有限会社アサミグリーンプラント(朝見良治代表取締役)を訪問。花を育てていた農業用鉄骨ハウスが雪の重みで倒壊した現場を確認した後、関係者と意見交換しました。

朝見氏は同市農業委員会会長を務めている立場から、大雪で3月の出荷を控えた主力品種が想定外の打撃を受けたと説明。花き産業の特徴として若年就農者が多い点も強調し、「現場の声を国に伝えてほしい」と訴え、国の支援を求められました。一刻も早い復旧を願い、災害に準じた補助制度の整備や対策を考え、全力で支援をしていく決意です。



文教科学委員会にて質問



2月7日、文教科学委員会において、「革新的研究開発プログラム(通称 ImPACT)」と呼ばれる“成功の見込みは高くないかもしれないが革新的な研究”、に対して支援する基金を創設する法案審議に際しに質問。

利益相反問題・特許帰属の課題とともに、基金運用について大きな裁量権を持つ研究責任者の選定について、「知識や経験などに加えて、人を束ねる人間力が大切だ」と強調して質問しました。

後藤田内閣府副大臣より「厳格に選んでい

きたい」と答弁がありました。

※革新的研究開発プログラム(通称ImPACT)とは総合科学技術会議の司令塔機能の強化の一環として、実現すれば産業や社会のあり方に大きな変革をもたらすハイリスク・ハイインパクトな革新的研究開発を推進するプログラムを基金として創設